

俳句史に触れ俳句鑑賞をする指導 — オンライン授業での実践 —

徳 永 辰 通

岐阜聖徳学園大学外国語学部非常勤講師

Instruction to Appreciate Haiku while Learning the History of Haiku Practice in an Online Class

Tatsuyuki TOKUNAGA

キーワード：俳句 鑑賞 俳句史 オンライン授業 国語総合

I. はじめに

これまでの俳句の授業実践を見ると、俳句の創作をおこなうものが多く見られる。たとえば、石塚修(2013)、植阪有理・光嶋昭善(2013)、桃原智英子・松本修(2015)がある¹⁾²⁾³⁾。石塚(2013)は俳句と川柳の差異の説明に「切れ」が好適であること、初学者に二句一章の取り合わせ句が創作しやすいということから、高校生を対象に二句一章の俳句創作をしている。植阪・光嶋(2013)は小学生を対象に、桃原・松本(2015)は中学生を対象に、いずれも二句一章の俳句を創作している。このように、俳句を創作する実践としては、二句一章の俳句を創作するものが多い。

最近の俳句の授業実践を見ても、俳句を創作するものが多く見られる。たとえば、久留島元(2017)、小川雅子(2018)、上川寛子(2020)がある⁴⁾⁵⁾⁶⁾。久留島(2017)は、文学鑑賞の導入として俳句が位置づけられる可能性があるとして、大学生を対象に実践をおこなっている。俳句の創作を踏まえることにより表現の豊かさに気づけるとし、まず俳句の基礎的知識を学び俳句を創作し、それから俳句の鑑賞をおこなっている。小川(2018)は、伝統的な言語文化としての俳句という観点から、小学生を対象に実践をおこなっている。まず作句をし、それを短冊に清書し、句会をおこない鑑賞をおこなっている。上川(2020)は、俳句を苦手と感じている生徒が多いことから、俳句を身近に感じる体験をする必要があるとし、俳句を創作してから俳句の鑑賞をしている。このように最近の俳句の授業実践は、俳句の創作をしてから鑑賞をするという順に進められるのが特色といえる。

筆者は、創作から鑑賞という順ではないが、俳句鑑賞をしながら俳句史の展開を理解し、俳句を創作する指導を令和3年度に計画した。俳句史は、作句方法により語られる。そのため、俳句史の展開を学びながら作句方法を理解し、俳句創作に応用しようと考えた。しかし、実践をおこなう直前になりオンライン授業となったため、計画を変更し、俳句史の展開を学びながら俳句を鑑賞し、それから比較的最近の、特色のある俳句の鑑賞をおこなうこととした。本稿はその実践報告である。

II. 授業の実践

1. 学習者

令和3年8月に、岐阜県の私立高校1年生のクラス(28人)の国語総合で実践した。生徒は全員大学進学を目指している。このクラスの生徒は、小学校、中学校で俳句に触れている。国語総合では本実践をおこなうまで詩歌を扱っていない。

2. 授業の方法

本実践をおこなう直前に対面授業からオンライン授業に変更となった。そのため、Web会議アプリケーションであるWebexを用い、授業を配信し、生徒はタブレット端末を用い、自宅で視聴するという方法でおこなった。オンライン授業となるにあたり、授業時間に制約が生じた。授業時間は1回が40分で

おこなわれることとなった。本実践は5回とも40分でおこなった。

授業は、PCで作成した資料をプロジェクターで投影し、それをタブレット端末を用い同時配信した。資料は毎時間、授業後にPDFファイルにして生徒に配信した。

実践をおこなった高校がオンライン授業の設備を整えている最中であったため、授業内の発問に対する回答にはLINEを用いた。生徒の授業参加をうながすため、授業時間内の発問はLINEを用い、生徒全員に回答を求めた。LINEを用いたのは、生徒同士が意見、考えを共有しやすくなると思ったからである。オンライン上で一人一人に発言を求めると時間がかかってしまい、聞く側も発言内容を覚えていなければならない。その点、LINEであれば全員の回答を短時間で集めることができ、回答は授業後も文字として残るため、あとで生徒が見返すことも可能となる。

LINEを用いずに文字で回答する方法として、ロイロノートで回答する方法、Webexのチャット機能を用いる方法も考えられた。生徒はタブレット端末を用い視聴している。そのため、前者の方法だと、タブレットの画面を分割し、Webexで授業を視聴しながらロイロノート进行操作することとなる。タブレットの画面を分割した場合、ロイロノートでの文字入力はいきにくくと思われる。授業者側においても、授業配信中にロイロノートで提出されたものを確認しようとする、タブレットの操作をしなくてはならず、その都度教壇を離れることになり、円滑に授業を進めづらい。後者の方法の場合、Webexを閉じてしまうとチャットのコメントが消えてしまい、生徒に回答を残しておくことができない。以上のことから授業内での回答は、LINEが適していると判断した。

授業後に提出する課題については、画像の貼り付けや、レイアウトの選択など自由が利くため、ロイロノートで提出させた。

なお、本実践後は、オンライン授業の設備も整い、ロイロノートのみを用い、授業をおこなっている。

3. 授業の展開

授業は図1の通りにおこなった。以下、各回において工夫した点、意図を述べる。

1回目

単元の説明をしたのちに、俳人の名を伏せて図2のa～hの8句を示した。そしてこの中から気に入った句を1句選び、理由とともにLINEで回答するよう指示した。

生徒にa～hの句を示したが、これは徳永辰通(2020)を参考に、国語総合の教科書に含まれている句の中から選定した⁷⁾。a～eは、俳句史の展開が説明しやすいもの、切れ字や二句一章が説明しやすいものを選んだ。

f～hについては、a～eにない面白さを有しているものを選んだ。本来、俳句は一行で表すのに対し、fは多行表記(多行形式)となっている。gは使用語句(「B面」)に特徴がある。そしてhは口語である。いずれもa～eには見られない特徴を有していることから、取り上げた。

授業回数	主な内容
1回目	投影された句の中から気に入った句を1句選び、その理由をLINEに書き込む。 俳句史の展開の説明。
2回目	a～dの句の鑑賞、説明。
3回目	eの鑑賞、説明。 切れ字、二句一章の説明。 ここまでの感想をLINEに書き込む。 fの句の面白いところをLINEに書き込む。 fの句の鑑賞。
4回目	gの句の鑑賞。 浦川聡子の句の鑑賞。 hの句を各自で調べ、課題を作成し、ロイロノートに提出。
5回目	4回目に提出されたhの句の課題を鑑賞。 hの句の鑑賞。 1回目～5回目の授業の感想をロイロノートで作成し提出。

図1 授業の展開

なお、俳句史の展開は、山下一海 (1999) を参考に、次の図3を作成して用いた⁸⁾。なお、俳句史の展開の説明および、説明に用いる語句も山下 (1999) を参考にした。

生徒に選句をさせるこの活動は、筆者が所属していた天華俳句会でおこなっていた句会の形式を参考にしている。この活動を通し、句会についても説明した。

1 次のaからiの俳句から一番気に入った句を選びなさい。

a いくたびも雪の深さを尋ねけり

b 曳かれる牛が辻ですつと見廻した秋空だ

c 白牡丹といふといへども紅ほのか

d 啄木鳥や落葉をいそぐ牧の木々

e 万緑の中や吾子の齒生え初むる

f 降る雪の
かなた
蠟燭の
輪の
舞踏
靴

g 旅終へてよりB面の夏休

h たんぽぽのぽぽのあたりが火事ですよ

図2 選句で用いた資料

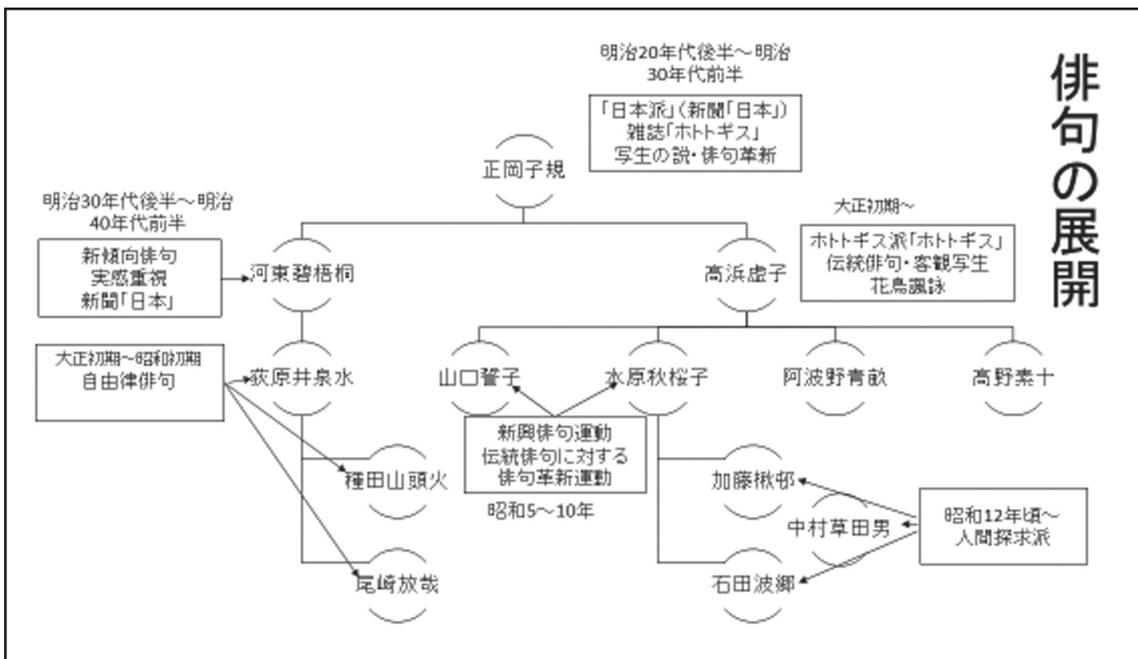


図3 俳句史の展開で用いた資料

2回目

a～dの句の鑑賞、説明をおこなった。句の鑑賞、説明では、山下(1999)にみえる俳句史の説明に触れ、作句方法の違いを確認しながらすすめた。

3回目

eの句の鑑賞、説明をしたのち、切れ字、二句一章の説明をした。そして、ここまでの授業を振り返っての感想をLINEで提出させた。次にfの句の面白さについてLINEで回答させ、fの句を鑑賞した。

4回目

gの句および浦川聡子の「クロイツェル・ソナタ折り鶴凍る夜」の鑑賞をした。

hの句をどのように解釈するか、レポートを作成させ、ロイロノートで提出させた。レポートを作成する際、調べたり、画像を用いたりしてもよいこととした。

5回目

4回目の授業で提出したレポートを紹介しながら、hの句の解釈の違いを確認した。その後、生徒が気づいていなかったhの句の別の解釈を紹介した。

最後に、本実践の前と後とで、俳句に対する考えやイメージがどう変化したのかを、感想とともに書かせ、ロイロノートで提出させた。

Ⅲ. 考察

以下、生徒の回答、レポートから、本実践の効果と課題を考察していく。

1. 生徒の選句理由から

1回目の授業で、図4のように、図2のa～hの句から気に入った句を理由とともにLINEで回答させた。回答を求めてから、約5分で全員が回答を終えた。生徒の選句状況を見てみると、次のようになる。

a	いくたびも雪の深さを尋ねけり	3人
b	曳かれる牛が辻でずつと見廻した秋空だ	0人
c	白牡丹といふといへども紅ほのか	11人
d	啄木鳥や落葉をいそぐ牧の木々	2人
e	万緑の中や吾子の歯生え初むる	4人
f	降る雪の／かなた／蠟燭の／輪の／舞踏／靴	0人
g	旅終へてよりB面の夏休	1人
h	たんぽぽのぽぽのあたりが火事ですよ	7人

11人の生徒が選んでいた写生句cの選句理由を見ると、「白牡丹だけ赤みがさしている情景が浮かんで綺麗だと感じたから」、「白と紅の対比と、花の色が想像しやすいのがいいなと思いました」、「白と紅の色がきれいだから。情景が伝わってきそう」という理由が見られた。同じく写生句であるaの句においても、「きれいな雪の景色をおもいうかべられるから」、「読んですぐに雪がたくさん降っていることが思い浮かび、綺麗そうだったから」という理由が見られた。いずれも、「情景が浮かびやすい」ことを選句理由としているといえよう。

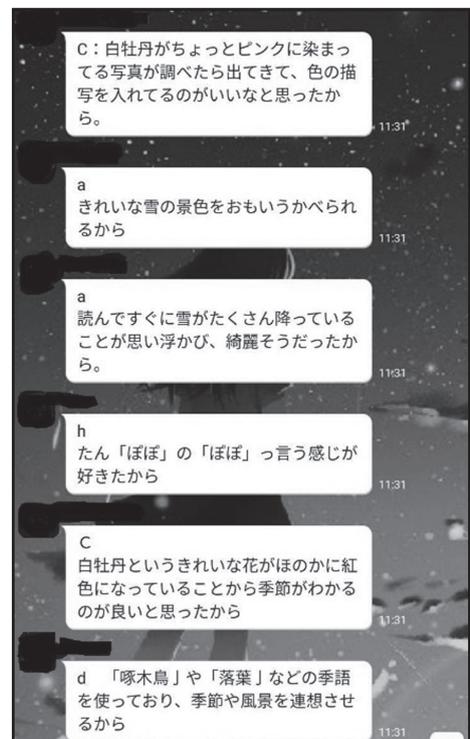


図4 LINEでの選句

cの次に多かったhの選句の理由を見ると、「たんぼぼのぼぼっていう不思議な表現が面白いと思った」、「たんぼぼと火事という言葉はあまり聞かないところに不思議に思った」というように、「不思議な表現である」ことを挙げるものが見られた。

選句の理由を見てみると、情景が浮かびやすいかどうか、不思議な表現であるかどうか、という点に偏りが見られた。この偏りは、生徒の俳句を鑑賞する観点が乏しいことに起因しているのではないかとと思われる。

2. 俳句史と切れ字を学んだ後の感想から

俳句史の展開とともにa～eの句を鑑賞し、切れ字や二句一章を学んだのち、3回目の授業内においてLINEで感想を提出させた。感想を見ると、図5にもあるように、「作者によって俳句の特徴が違って面白い」、「俳句を観る観点が広がりました」というコメントがあった。この他、切れ字や二句一章についての指導についても、「切れ字の位置で強調される言葉や感動の中心が変わってくることでその俳句の情景が浮かびやすくなると思いました」、「切れ字の位置によって句切れ方が変わって、強調される言葉が違ってくるところが面白い」というコメントがあった。切れ字を鑑賞の手がかりとして理解したことがうかがえる。

俳句史の展開や切れ字について学んだことが、俳句に興味を持たせたり、俳句を鑑賞する観点を広げたりすることに繋がったと言えよう。

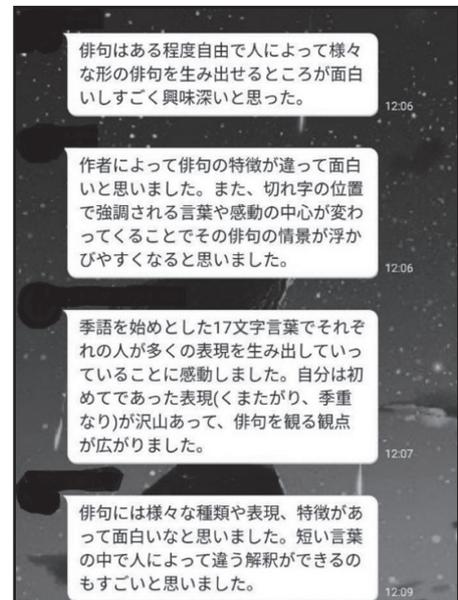


図5 俳句史、切れ字を学んでの感想

3. 「たんぼぼのぼぼのあたりが火事ですよ」の課題から

4回目の授業で、坪内稔典の「たんぼぼのぼぼのあたりが火事ですよ」という句を鑑賞させた。句意と、この句の面白さをまとめ、ロイロノートで提出させた。課題はインターネットなどで調べてもよいこととし、提出する資料には画像などを貼り付けてもよいこととした。

この句は、「ぼぼのあたり」をどのあたりと考えるのか、「火事」とはどういうことなのかを鑑賞のポイントになろう。「ぼぼのあたり」を綿毛ととらえた生徒が17人と最も多かった。このうち、「夕陽が当たっている様」と解釈している生徒は14人で、解釈に偏りが見られた。インターネット上に同句を「綿毛が夕日に照らされている」と鑑賞しているものがあり、そこに用いられている夕陽に照らされている綿毛の写真を課題で用いている生徒が9人いた。このことから、インターネット上の鑑賞をそのまま受け入れている様子が見てとれた。なかには、次のように、「ぼぼのあたり」を「たんぼぼの下半分」と解釈しているものもあった。

この句は、たんぼぼの下で春になり活発に活動しだした虫たちの様子を表しているのだと考える。まず「たんぼぼのぼぼのあたり」という文字を俳句の形で見ると、たんぼぼの下半分をさしていると読み取ることができる。そして「火事」の部分は、春の句であることから暑さのことではないと想像がつく。そこで私は、春になり冬眠や巣での生活を終え、久しぶりに外に出てきた虫たちの元気よさを暗喩で表したのだと考えた。

生徒の調べている内容を見ると、作者である坪内稔典の出身地や花言葉、「たんぼぼのぼぼ」という表現を用いる他の句（「たんぼぼのぼぼと綿毛のたちにけり」）の存在など、多種多様であった。インターネットを用い、自主的に調べている生徒が見られたことから、この課題が主体的な学びに繋がっていることがうかがえた。

①句意

私はこの句はたんぽぽがエネルギーを蓄えている状態だと考えました。まず、たんぽぽの「ぼぼ」の部分は綿毛を表していて、綿毛が開く寸前のつぼみの状態をよんでいると思いました。そして、そのつぼみが花開くために貯えているエネルギーを火事に例えていると考えました。写真のように、立ち上がろうとしている綿毛や開く寸前の綿毛はつぼみの下の方が膨らんでいます。私はその状態を写真で見て、そこにエネルギーが蓄えられていると考えました。



②この句の面白さを説明しなさい。

この句はひらがなや簡単な言葉しか使われておらず、頭に残りやすいリズムになっているので親しみやすい印象をつけることができるところが面白いと思いました。また、「ぼぼ」と可愛らしい言い回しを使っていたり「～ですよ」と終わらせることで、柔らかくのびやかなイメージが湧きました。また、タンポポから春の穏やかな景色がイメージされるのに対して、「火事」という相反する言葉が使われているのが面白いと感じました。

図6 「たんぽぽの～」の句の課題の例

課題を見ると、句の鑑賞をインターネット上からそのまま受け入れている生徒が見られたり、複数の生徒が同一の画像を用いたり、インターネット上の情報を吟味したり、批判的に読んだりする指導が必要であるように思われる。また、引用の指導をしていなかったため、課題には引用先が明示されていない。引用の指導もおこない、正しく引用できるようにする必要もあった。

4. 本実践に対する感想から

5回目の授業で、本実践後に俳句に対するイメージがどのように変化したのか感想をロイロノートで提出させた。

授業の前は、俳句というものは、意味が捉えにくくて分かりにくいと面白くないなと思っていました。ですが、授業で俳句の歴史や季語、句切れなどを理解した上で俳句を読んでもらうと俳人の伝えたいことがよくわかるようになり、ました。また、自分なりの解釈や面白いと思うところをクラスの人達と交流することによって、一つの俳句に様々な解釈の仕方があってとても面白かったです。これから俳句を読む機会があったら、句切れを意識したり、他の捉え方もないかなと考えてみたいと思いました。

図7 本実践後の感想の例1

授業を受ける前は、「俳句」と聞くと、「みんな自由に詠んでいるもの」としか思っていなくて、中学校の時の俳句の授業も正直あまり楽しいとは思っていませんでした。

だけど、今回授業で俳句の歴史から学んだことで、一概に俳句といっても、感情・人を入れる、見たまをそのままかくなど、流派みたいなものが結構あって、その時代ならではの考え方も同時に学ぶことができたので、俳句を学んでいて、初めて面白いと思いました。

俳句を解釈していく中でも、自分のした解釈と似ている人はいたけど全く同じ人がなくて、1つのもので十人十色の考え方が出てくるものはそうそうないと思うので、句意や技法を考えるのが楽しくなりました。

図8 本実践後の感想の例2

感想を見ると、図7のように、授業前は、「意味が捉えにくくて分かりにく」かったが、「俳句の歴史や季語、句切れなどを理解した上で俳句を読んでみると俳人の伝えたいことがよくわかるようになった」とあるように、実践を通し俳句鑑賞の観点を理解したようである。

図8では「今回授業で俳句の歴史から学んだことで、一概に俳句といっても、感情・人を入れる、見たまをそのままかくなど、流派みたいなものが結構あって、その時代ならではの考え方も同時に学ぶことができたので、俳句を学んでいて、初めて面白いと思いました」とある。俳句史の展開、作句方法の違いを学びながら俳句を鑑賞したことで、生徒が俳句に対し興味、関心を持ったことがうかがえる。

他にも、「授業前は意味がわからないし、難しいし堅苦しいイメージ」があったが、授業後は「表現の仕方がいろいろあって面白いし、靴の形をイメージしたものがあつたりと言葉以外のところまでこだわっていて、イメージが変わりました」というように、f（「降る雪の～」）やh（「たんぼぼの～」）の句の鑑賞を通して俳句を面白く感じたという生徒もいた。特色のある俳句の鑑賞も、俳句への興味、関心に繋がっている。

本実践はオンライン授業だったため、生徒間での意見、考えの共有を目的にLINEやロイロノートを用いた。図7に「クラスの人達と交流することによって、一つの俳句に様々な解釈の仕方があつてとても面白かった」とあるが、これはLINEや、ロイロノートによる回答の共有を「交流」と言っているものと見られる。他にも、「俳句の解釈を自分で考えることが苦手」だったが、「LINEでみんなの意見をみながら考えていると、思っていたより楽しかった」と書いている生徒もいた。LINEやロイロノートなどを用い、意見、考えを共有することで、交流に似た効果が得られたと言えよう。

IV. まとめと課題

本実践が有効であった点をまとめる。まず、俳句史の展開、作句方法を確認しながら俳句の鑑賞をし、句切れや二句一章を学ぶことで、生徒の俳句鑑賞の観点が広がった。次に、f（「降る雪の～」）やh（「たんぼぼの～」）の句の鑑賞も、俳句への興味、関心に繋がった。そして、LINEやロイロノートを用いることで、オンライン授業でも交流に似た効果が得られた。

課題もある。h（「たんぼぼの～」）の句について、生徒に調べさせ解釈を提出させたが、インターネット上にある同句の解釈をそのまま受け入れている生徒が見られた。吟味したり、批判的に読んだりする指導が必要である。また、調べたことを、出典を明示せずに用いている生徒がほとんどであった。調べたことをまとめるような課題では、引用の指導も必要である。

筆者は、本実践後、スマートフォンが故障し、本実践の生徒の回答のデータが消失した。本稿執筆に

用いた図4、図5をはじめとするLINEのデータは、すべて生徒から提供を受けた。LINEやロイロノートを用いる場合、データの消失に注意する必要がある。

本実践は、もともと有季定型の俳句創作を計画していた。そのため、資料に自由律俳句を入れていなかった。急遽、オンライン授業となったことで、鑑賞中心の授業へと変更したが、資料の改編が間に合わなかった。俳句史の展開を扱うのであれば、自由律俳句も取り上げる必要がある。

注・文献

- 1) 石塚修 (2013) : 「切れ」からはじめる俳句の創作指導, 人文科教育研究, 40, 41-48.
- 2) 植阪有理・光嶋昭善 (2013) : 創作と鑑賞の一体化を取り入れた俳句指導—国語における新たな単元構成の提案—, 教育心理学研究, 61(4), 398-411.
- 3) 桃原智英子・松本修 (2015) : 中学生における俳句の読みと創作, 総合学術研究紀要, 1, 75-89.
- 4) 久留島元 (2017) : 創作鑑賞をふまえた俳句の授業: 扉としての俳句, 同志社国文学, 87, 54-79.
- 5) 小川雅子 (2018) : 小学校における伝統的な言語文化の指導: 俳句の創作と書写, 山形大学教職・教育実践研究, 13, 11-19.
- 6) 上川寛子 (2020) : 創作活動を取り入れた俳句指導の工夫, 鳥取大学附属中学校研究紀要, 51, 11-14.
- 7) 徳永辰通 (2020) : 高等学校の教科書俳句の変遷—俳句史の視点から, 岐阜聖徳学園大学紀要外国語学部編, 59, 69-88.
- 8) 山下一海 (1999) : 俳句の歴史—室町俳諧から戦後俳句まで—, 朝日新聞社, 東京.